

林地に於ける寒害状況は次の如く稍アカタスの方が強いと考えられる。

寒 害 状 況

	無	極 少	微	中	激	枯 死	合 計
アカタス	50						50
芳 樟	0	26	10	7	3	1	50

従つて次の結論が得られた。 1) アカタス、アオタス、芳樟、脂樟の種に抗毒性が弱い。 2) ホウケタスはアカタスよりも抗毒性が弱い傾向がある。 3) 生長程度によつて差異があり、春芽は夏芽より抗毒性が弱い。 4) 耐寒性との関係に於ては明確ならざるも、芳樟はアカタスより耐寒性に弱い傾向ある故、他の植物の場合と異なり正の相関が得られた。この問題については今後の研究にまつ。

くす種子の貯蔵について

日本専売公社しょう脳試験場 国生 哲夫

緒言 くす苗木は一年生で山出し得る健全苗を育てなくてはならない。而してくす種子の発芽は2～3ヶ月を費すのであつて就中生長期の5、6月を発芽に費す事は非常に育苗に影響する。又長期に亘る発芽は生長を不揃いにし得苗率を減少するので発芽率を減少せしめざるべく一斉に発芽せしめるのが先決問題である。そこで種子調理由播種迄の取扱問題を検討した今回は土中埋蔵を行つたのである。

試験の方法

1. 種子埋蔵場所 鹿児島市下伊敷町 しょう脳試験場内苗圃

2. 埋蔵の時間的区分

くす種子は調理由乾燥せしむれば三日目迄は意欲に乾燥し、七日目迄はやゝ意に乾燥し、それ以降は極めて僅かづつ乾燥するので本試験の時間的区分は、即日埋蔵、三日目埋蔵、七日目埋蔵の三つに区分した。

3. 埋蔵位置の区分(深さの関係)

地表下5寸、1.2尺、2.5尺の位置に埋蔵を行つた。この三者の含水率は次を通りである。

埋 蔵 位 置	地 下 5 寸	地 下 1.2 尺	地 下 2.5 尺
含 水 率	31 %	34 %	36.5 %

4. 砂との混合度区分

種子を1とした場合、川砂を0, 1, 2, 3, 4, 5, の割合で混合した。

以上の四種について夫々区別し昭和27年1月10日に即日埋蔵を実施し、3日目

7日目の埋蔵を1月12日、1月16日に実施した。埋蔵に当つては地中一定の深さに掘下げ、底部に敷敷をし砂と種子を充分混拌してそのまま埋蔵した。これらの種子は3月22日掘上げ直ちに播種したのである。

試験結果の考察

1) 埋蔵の時間的区分結果

試験を実施した各種につき記述するのが妥当であるが此処には、地下5寸混合度1:2のものを抽出した。その結果はホ一四、ホ二四に示す通りであつて三日目埋蔵の区が最良の結果を出している。即ち対照区の風乾種子の80%に達するに25日遅延出来、発芽期間を半分減少せしめた。即日埋蔵の区も同様に80%に達するのに14日短縮している。7日目埋蔵の区はその発芽率が対照区を下廻るので不適当である。結論としては種子が急速に乾燥する三日目迄に埋蔵すれば良いのではないかと懸念される。

2) 埋蔵の位置(深さの關係)区分結果

本試験は三日目埋蔵の砂と種子の比率2:1を抽出比較した。その結果はホ三四、ホ四四に示す通りであつて地下5寸区が最良である。次に良好なものは地下12尺区であつて対照区80%と同率になるに前者は25日、後者は14日である。地下2.5尺になると対照区とは同発芽率ではあるが、発芽が全体的に約1週間遅れているので不適当である。結論的には地下5寸位の位置に埋蔵すれば平均発芽率80%に達せしめるのに約1ヶ月遅延出来るのである。

3) 砂との混合度比較結果

以上二項目の結果より三日目埋蔵、地下5寸を抽出して比較した。その結果を良好なものより先列すると下表の通りである。

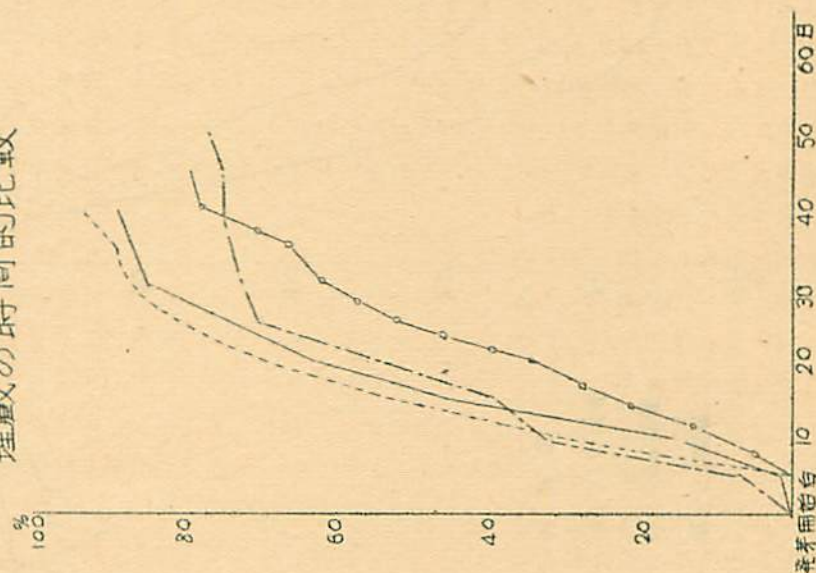
層位	砂との混合度	発芽率	発芽終了日数	80%になる迄の日数	対照区との日数差
1	砂 3 種子 1	99%	71日	49日	32日
2	1 : 1	98%	91日	52日	29日
3	4 : 1	97%	80日	52日	29日
4	5 : 1	94%	71日	53日	28日
5	2 : 1	93%	71日	56日	25日
6	0 : 1	85%	68日	59日	22日
対照区	— —	80%	81日	81日	—

この結果より考察すると埋蔵種子は何れも風乾種子より良好な成績である。然り乍ら砂混合の区と混合しない区と比較すると発芽率は混合しない区が5%、混合した区が16%の上昇で、砂を混合した方がよいのは明瞭である。而してその度合は層位よ

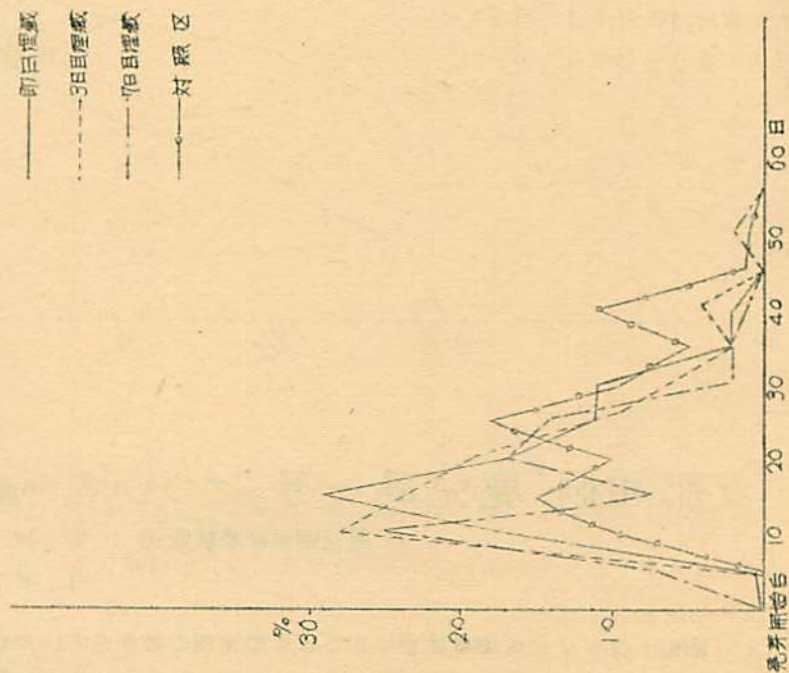
りみて3, 1, 4, 5, 2 の順であるように順序不同であるのでこれは種子同の接触を避ける程度でよいのではないかと思考せられる。

結 び 以上各項について検討を加えたが、綜合してみると種子調運后3日以内に埋藏することが先決であつてその深さは大体1尺以内とし、砂との混合は種の接触を避ける程度即ち1/10以上であればよい杯に思考せられる。場所的問題については明瞭な成績が出なかつたが、以上の杯な方法なら先づ初期の目的を達し得るようと思われる。

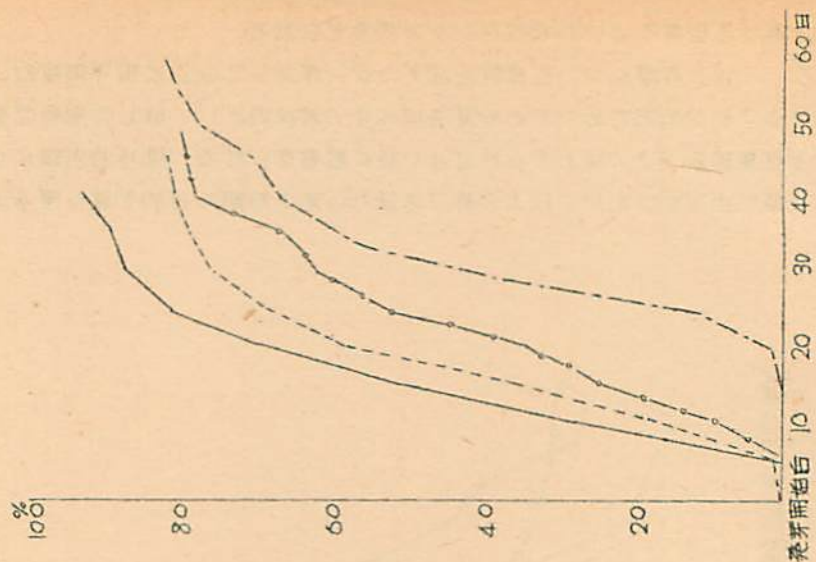
第2図 埋藏の時間的比較



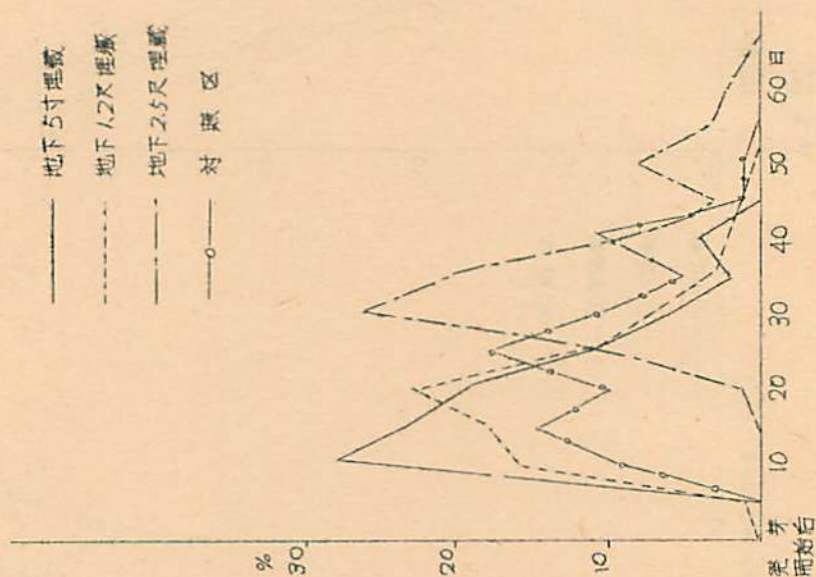
第1図 埋藏の時間的比較



第4回 埋藏深度比較



第3回 埋藏深度比較



支那油桐「鹿兒島一号」について(予報)

鹿兒島果林業試験場 中村 敏
寺尾 正郎

(緒言) 昭和12~13年頃農林省に於ては支那油桐の栽培を大いに奨励し種苗を各県に多量轉送して之が急速な増殖を圖つた。当時鹿兒島県に於ても一般に之を栽